



わかやま

No.55
和歌山県精神保健福祉センター 2013年 5月

和歌山県障害福祉課 こころの健康推進班
班長 長島 隆

「和歌山県の精神保健福祉医療の課題」

今年4月の異動で、県庁障害福祉課こころの健康推進班長を拝命しました長島です。県庁勤務は、12年ぶりです。組織の在り方や、ITによる情報伝達など、とまどいの毎日ですが、クールビズ本番の季節を迎え、そろそろ、この状況にも慣れなければいけない時期になっています。

久しぶりに、県庁に戻ってきましたが、当たり前のことで、大きく精神保健福祉医療の施策は変わっていました。前回(健康対策課精神保健班)、勤務していた頃は、ちょうど精神保健福祉法第34条移送制度が創設された時期でした。和歌山県の実施件数が、全国1位となり、精神科救急医療システムの構築に追われる毎日でした。現場の最前線である(県立)保健所では、精神保健福祉相談員の兼務発令が解かれ、段階的な各保健所へ1名ずつの配置が終了しました。県内の社会資源についても、紀北に社会福祉法人一麦会、紀南に社会福祉法人やおき福祉会が県内の地域をリードし、精神保健福祉の分野を切り開いていきました。一担当として、この分野の進化を常に身近に感じることができ、非常にやりがいのある毎日でした。

その後の施策の流れについては、私から言うまでもなく、障害者自立支援法ができ(障害者総合支援法に名称が変わり)、身体・知的・精神の3障害者の方々が、同じサービスを受けることが可能となりました。後発隊である精神の分野でも、福祉のサービスが格段に受給できる状況となりました。現在、こうして、障害福祉課のなかで、仕事をしているのも、明らかに時代の流れに沿ってのことです。

しかし、政策的に、保健医療の分野(健康対策課)から福祉分野(障害福祉課)に所管が移ったとはいえ、保健医療の分野の占める割合は、非常に大きいことを痛感しております。まだ在任短い間で恐縮ですが、現状をみますと、自殺対策の普及啓発・アウトリーチや地域移行への仕掛け・増大する認知症対策への取り組み、そして何よりも5大疾病として精神疾患が加えられ、医療計画に盛り込まれることになったこと。これらすべてに渡り精神科医療との密接な連携を強化していくことが、大きな課題であると考えています。

この連携課題については、本庁の行政指導以上に、地域の力が必要です。従前から、地域連携を構築していくためのネットワーク会議等について、精神の分野では、社会資源が乏しいなかで、積極的に各地域で行われてきました。こころの病への偏見を解消していくために、インフォーマルなサービスの活用などを通じて地域を底上げしてきた力を是非ともお借りしたいと思います。

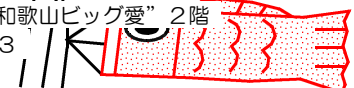
自立支援法施行以降、各圏域において、自立支援協議会や地域移行推進部会等のネットワーク会議ができ、地域の課題や地域移行について、活発に議論がされています。

県精神保健福祉センターや各地域の市町村・保健所とも協働し、できるだけ風通しの良い関係を作り、精神障害者の方々の地域生活をより良くしていくことが何よりも大切であることを改めて、肝に銘じてゆきます。皆様方のご協力をいただきながら、精一杯がんばってまいりますので、よろしくお願いたします。

もくじ

- P1 「精神保健福祉医療の課題」
- P2 シリーズセンター長だより⑭/
〈お知らせ〉精神保健福祉協会総会及び講演会
- P3 精神保健福祉センター相談案内
- P4 〈紹介〉青年のつどい フリースペース
- P5 和歌山メンタルヘルスニュース/研修会案内
- P6 はあとふるネットワーク/編集後記

和歌山県精神保健福祉センター
〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階
☎(073) 435-5194 FAX (073) 435-5193



シリーズ センター長たより⑭

和歌山県精神保健福祉センター所長 小野 善郎

DSM-5

5月にサンフランシスコで開催された米国精神医学会で、「精神疾患の診断・統計マニュアル (DSM)」が20年ぶりに改訂されました。これまでのバージョンであるDSM-IVに対して、新たなものはDSM-5と呼ばれます。DSM-5はあくまでも米国の診断基準ではありますが、事実上の世界標準として大きな影響力を持っていますので、近いうちに日本語版も出版され、いくつかの精神疾患は今までとは違う呼び方をされるようになるかもしれません。DSMの診断では、別々の医者が同じ患者を診たときに同じ診断が付く可能性が高いといわれています。これはとても大切なことですが、その一方で、同じ診断が付いた人が同じ原因で現在の症状が出ているとは言い切れないという欠点も指摘されています。残念ながら、最新のDSM-5でもこの部分に大きな発展はありません。

病気と健康な状態の差は微妙なところがあるので、正確に境界線を引くのは本当に難しい作業です。少し変なたとえになりますが、人間とチンパンジーは外見的に明らかに違うので簡単に区別できます。しかし、遺伝子レベルではほんの少ししか違いがないと言われているように、両者の違いの原因を説明するのは簡単ではありません。DSM-5はまさに人間とチンパンジーを区別する道具としては優れていますが、その違いの本質にせまることができるものではありません。ということで、私たちは新しい病名に惑わされることなく、これからも一人ひとりの症状を理解する努力を続けていかななくてはなりません。



チンパンジーの遺伝子配列の約98.8%は人間と同じ

＜お知らせ＞

和歌山県精神保健福祉協会総会及び講演会の開催について

平成25年度定期総会と講演会（こころの集い）を次のとおり開催します。

- 日時 : 7月23日 (火)
場所 : 和歌山ビッグ愛2階 201会議室
内容 : <総会> 13:15 (受付 13:00~)
<講演会> 14:00~16:00
講演会 : テーマ 自殺対策から学ぶ生きる支援とは
~映画「希望のシグナル」の撮影現場から~

講師 映画監督 都鳥 伸也 氏



『希望のシグナル』は自殺率が日本で一番高い秋田県の自殺対策に取り組む人々を記録したドキュメンタリー映画です。秋田県では、多くの民間団体と行政が一体となって、自殺対策に取り組んでおり、そこには精神保健福祉についても重要な参考となる活動があります。

29歳の若い監督が地域の自殺防止活動というテーマに正面から取り組み、人が生きようと思えるために必要なものとは何かを追いかけた製作現場から見えてきたことについて語ります。

平成25年度 精神保健福祉センター相談案内

♡ 自死遺族相談（要予約）

自死（自殺）により大切な人を亡くされた方を対象に、死別による悲しみから回復することをお手伝いする相談をおこなっています。

対 象：自死（自殺）により大切な方を亡くされた方
（家族・知人・友人）
日 時：第2月曜日 16:00～20:00
第4月曜日 13:00～17:00

※都合により、日程が変更される場合があります。

♡ わかちあいの会和歌山「うめの花」（要予約）

自死（自殺）により大切な人を亡くされた方どうしが、悲しみや苦しみを安心して語ることができるわかちあいの会を開催しています。

対 象：自死（自殺）により大切な方を亡くされた方
（家族・知人・友人）
日 時：平成25年 6月30日（日）13:30～15:30
8月23日（金）19:00～21:00★夜間
10月14日（月）10:30～12:30
12月21日（土）13:30～15:30
平成26年 2月23日（日）13:30～15:30



♡ 思春期・青年期 特定窓口相談（要予約）

専門の医師による思春期、青年期の相談窓口を設置しております。
思春期、青年期に特有の悩みや精神疾患、不登校やひきこもり等の相談に応じます。

対 象：思春期、青年期の問題を抱える本人やご家族（県内に在住の方）
申込み：精神保健福祉センターに電話にてご連絡ください。
073-424-1713（いっぽライン） 受付時間：9:00～17:45

♡ 青年のつどい フリースペース

対人関係やひきこもりの問題を持つ方を対象に、自由に過ごせる憩いの場を設けています。

対 象：和歌山県在住の概ね16歳～40歳までの方
日 時：毎週火曜日 13:00～16:00
申込み：精神保健福祉センターにご連絡ください。

※スタッフが個別相談に応じます

♡ ひきこもり家族のつどい

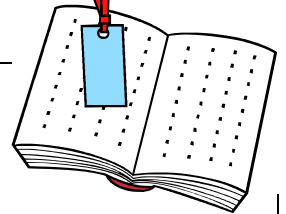
ひきこもりの問題を抱える家族どうしが、気持ちのわかちあいや情報交換のできる場を設けています。

対 象：ひきこもりの問題を抱えた家族
日 時：毎月第3水曜日 13:30～15:30
申込み：不要

青年のつどい フリースペース

精神保健福祉センターでは、「家以外で自由に過ごせる場が欲しい」「人とコミュニケーションをとりたい」「生活を充実させたい」・・・こうした思いを持つ方を対象に、“青年のつどい・フリースペース”を開催しています。いつでもお気軽にご参加ください。

- ② 活動内容は基本的に自由です。参加者は思い思いに時間を過ごすことができます。
- ② 利用時間内であれば、好きなときに参加して、好きなときに帰ることができます。
- ② 見学だけでも可能です。



対 象：和歌山県在住の概ね16歳から40歳までの方
ひきこもりの状態にある方
人とかがわることにまだまだ抵抗のある方

開 催 日：毎週火曜日 13:00～16:00 ※都合により、予定が変更になる場合があります。

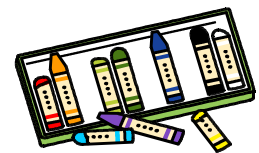
場 所：精神保健福祉センター内 プレイルーム

参加申込：まず精神保健福祉センターにご連絡ください。事前にスタッフが個別相談に応じます。

連 絡 先：和歌山県精神保健福祉センター
TEL：073-435-5194 FAX：073-435-5193

トランプやUNO、カード麻雀などの室内ゲームや音楽鑑賞、映画鑑賞（DVD）、塗り絵、卓球、読書。森林浴などを自由に楽しむことができます。今後もゲームトーナメントやマナー講座、公園散歩、文化体験（書道や絵画、切り絵、ビーズづくり等）、スポーツなど様々な企画があります。活動内容は参加者の皆さんと話し合いながら決めていきます。

☆ 青年のつどい フリースペースの様子 ☆



研修会案内

テーマ:「自殺を考えた自分がお話できること」

自殺とは誰にでも起こりうる「追い詰められた末の死」です。追い詰められた気持ちや立ち直りについて体験談を聞くとともに、周囲に求められる対応について学ぶ機会とします。

講師:岩崎順子 氏

(財)和歌山県人権啓発センター登録講師。「いのち、人権、心、子ども、親子、高齢者、生と死」をテーマに、全国で、医療、福祉、学校、企業関係者研修や市民公開講座の講師を務めている。

日時:平成25年6月25日(火) 13:30~15:30

場所:和歌山ビッグ愛5階501会議室

対象:自殺予防に関心のある方(一般、関係者)



テーマ:「できるのにやらない」「わかっているのに動かない」のはなぜ?

~実行機能から考える思春期の行動~



日頃、「やらない」・「出来ない」子どもを叱ってばかりいませんか。ご自身の指導に効果を感じられていますか。研修会では、脳科学的視点で実行機能から子どもの行動を理解し、子ども個人の特性に合わせたより効果的な関わり方や指導方法を考えます。

講師:バーンズ亀山静子 氏

(ニューヨーク州公認スクールサイコロジスト)

日時:平成25年7月29日(月) 13:30~15:30

場所:和歌山ビッグ愛6階603会議室

対象:教育、行政、医療、施設等の関係者で興味、関心のある方どなたでも。

いのち・つなぐ・講演会

遺された子どもの心
ともに生きる家族

—サポートの現場から—

自死(自殺)や病気、事故、災害等により親や家族を亡くすことで、子どもはどのような体験をするのか。なにを思い、なにを感じながら死別の事実とともに新たな生活を送るのか。大切な家族を亡くした子どもの心に少しでも近づき、よりそって生きる時に心にとどめておきたいことを知り、子どもとともに傷ついた家族がひとりて悲しみを抱え込まないためになにができるかを探るのが講演会のテーマです。大切な方を亡くされた方、子どもの身近にいる方、「生」や「死」について関心のある方等、ぜひご参加ください。

講師 鈴木 康明 氏 (東京福祉大学心理学部 教授)

筑波大学大学院教育研究科終了。東京外国語大学、国士舘大学を経て、現在、東京福祉大学心理学部教授。専門は、グリーフケア、死生学。日本カウンセリング学会理事。著書に「生と死から学ぶ」(北大路書房)、「グリーフ・カウンセリング」(臨床心理クライアント研究セミナー、至文堂)他、多数。

日時:平成25年7月28日(日) 13:30~15:00

場所:県民交流プラザ和歌山ビッグ愛601会議室

対象:どなたでもご参加いただけます(無料)

大切な人を亡くした方の交流会

自死や事故、病気、災害などで大切な人を亡くした方(家族や友人)どうしが、安心して気持ちをわかちあえる交流会を開催します。お茶をのみながら、心地よく自然な時間を過ごしませんか。参加を希望される方は、ご連絡ください。

日時:平成25年7月28日(日) 15:30~16:30

場所:和歌山ビッグ愛(申し込みされた方に追って連絡いたします)。

対象:大切な人を亡くした方(家族や友人)に限ります。(要申込)

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、ハローワーク御坊 中北 千寿さんです。

はーとふるネットワーク



ーハローワークの精神障害者雇用トータルサポーターとはどのような仕事なのですか？

就職活動中または就労中の、精神に障害をお持ちの方などを対象として、カウンセリングをはじめ、精神障害者に関する企業への啓発活動、雇用事例の収集、職場の開拓、就職に向けた準備プログラムや職場実習の実施、就職後のフォローアップまで、総合的かつ継続的な支援を行うためにハローワークに配置されています。

ー具体的にはどのように支援をするのですか？

まずは本人さんの生活リズムの安定・構築や、服薬・体調管理等についてアドバイスを実施し、就労に向けての困りごと・生きづらさ等を一緒に整理していきます。そして、今・これから取り組むべき課題を明確化し、本人さん自身にあった対処法(自分自身の助け方 / 支援方法)を見つけていく事により、適職探しや就労継続のためのポイント整理を行っています。これらの段階を踏みながら、履歴書作成時のアドバイスや、面接対応の練習、事業所見学などの職業準備プログラムを実施しています。また、各段階を経て、実際に就職が決まった後にも、就労継続支援として、就職をしたからこそ発生する、職場や生活場面でのストレス要因の分析や困りごとの解消等のために、支援を続けています。

ーこの仕事の魅力はどんなところですか？

限られた時間の中ではありますが、「来てよかったです」「少し楽になりました」など、来た時よりも笑顔になられたり、「私はこういう業務は得意です。こういう支援があればできます」など、自分自身のことをアピールするポイントを掴み、徐々に前向きになっていくご本人さんに、ハローワークの職員さんや紀中障害者就業・生活支援センター わーくねっとの職員さんらと共に、寄り添えるところ です。

ー苦勞されることはどのようなことですか？

医療機関やわーくねっとさんなど、専門機関への誘導が不調に終わったり、やっと実習につながっても継続できなかったりと・・・ マッチングがうまくいかないこと

が、多々あります。

ーこの仕事をされるきっかけは？

精神科デイケアや、福祉施設での今までの経験を活かし、「いきづらさ」を抱える方々に寄り添える場だと感じ、この業務に就かせていただきました。

ーハローワーク御坊の特色・PRなどを短くどうぞ

ハローワーク御坊だけでなく、和歌山・橋本・海南・湯浅・田辺・新宮のハローワークにも、トータルサポーターは配置されています。私は、月2回・月曜の13:30～ハローワーク御坊にいます。各ハローワークで曜日や時間も違います。みなさんの周りに「一度利用してみたい」という方がいれば、ぜひ各ハローワークにお問合せいただければと思います。

ー今後の抱負を教えてください。

1人でも多くの方が、就労を通して生活をより充実したものにしてもらえるよう、今後とも関係機関の方々と連携して活動していければと思います。

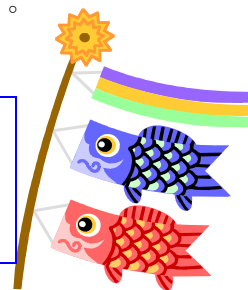
ー次の方のご紹介とその方へメッセージをお願いします。

和歌山県発達障害者支援センターポラリスで、相談支援員として活躍されている宇井康介さんをご紹介します。まだ2年目とのことですが、若さと勢いのある宇井さんに、「発達障害」についていつも教えていただいております。宇井さん、いつもお世話になっております。

次回寄稿、よろしくお願い致します。

<お詫び>

前回第54号の紀中障害者就業・生活支援センター西田純子さんのお名前を西川純子さんと表記してしまいました。お詫びして訂正します。



編集後記

乳がん予防のために、乳房を切除するという女優アンジェリーナ・ジョリーの選択が大きな話題になっています。一方で、日本の乳がん検診受診率が欧米に比べて低い現状があります。「症状がない」「時間がない」などの理由が上位にあげられているとのこと。アンジーの選択とはかなり乖離がありますが、彼女の決断への関心が自己検診や、受診などの行動に少しでも結びつくことになればと思います。